

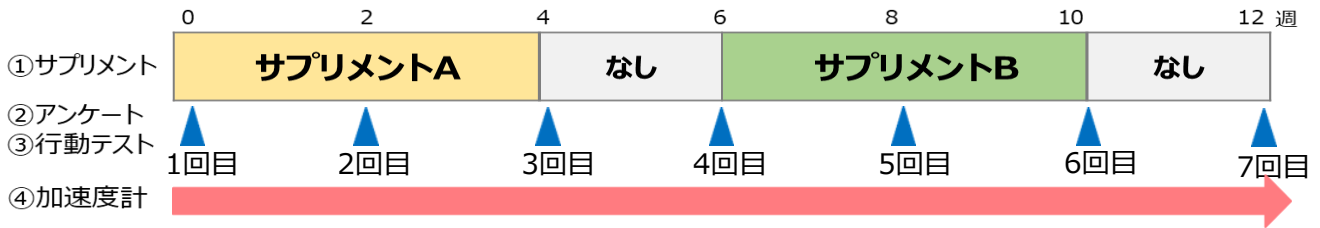
鈴木雅(動物応用科学科3年) 担当教員：久世明香, 菊水健史, 永澤美保, 青木卓磨

研究の背景と目的

- ・ 獣医療の発展や日常のケアの向上により、イヌの平均寿命は年々延びている一方、**加齢に伴い、運動機能の低下や認知機能の低下が見られ、イヌおよび飼い主のQOLに支障をきたすことがある**
- ・ 本研究は、老化に伴う運動障害および認知機能低下に対する改善が期待されている**犬猫用栄養補助食品**（ガードワン®、株式会社グロービア）について、**効果を検証すること**を目的とする

研究・調査方法

- ・ 対象動物：認知機能あるいは運動機能の低下を示す10歳以上の高齢犬
(今回は、スタンダード・プードル、13歳、避妊メス1頭を対象とした)
- ・ 研究デザイン：ランダム化二重盲検交差比較試験

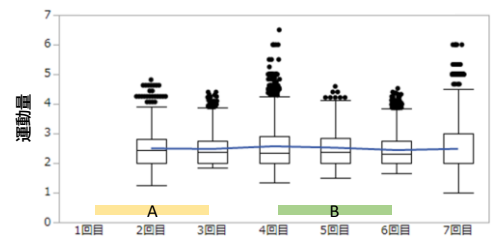
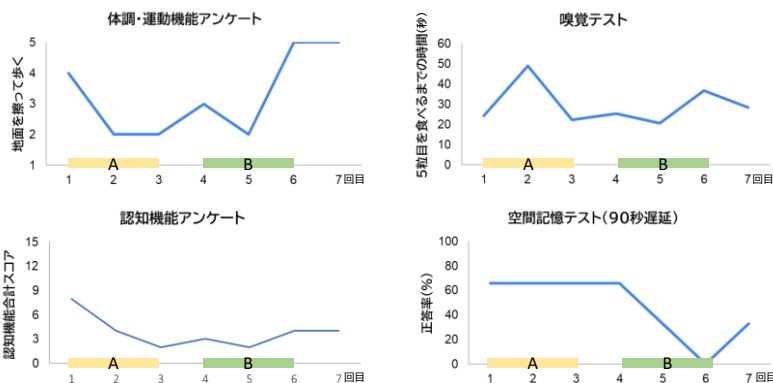


- ① サプリメント：実薬*とプラセボを4週間ずつ経口投与
*有効成分として、フェルラ酸・ヘスペリジン・ナリルチン・α-GPCを含む
- ② アンケート：2種類（体調・運動機能15項目および認知機能18項目）について飼い主が回答
- ③ 行動テスト：2種類(嗅覚テストおよび空間記憶テスト)を飼い主が実施し、後日、行動解析
- ④ 加速度計：ビーコン型加速度センサを犬の首輪に常時装着し、犬の動きを12週間記録
解析ソフト（Matlab）により運動量を算出

アンケート、行動テスト、加速度計で得られたデータについて、実施回数（2週間ごと）のグラフを作成し、サプリメント投与および時間経過により、どのような変化があるかを確認する

結果と考察

この症例では、Aが実薬



- A投与後は、B投与後と比較し
- ・ 地面を擦って歩く頻度が減少
 - ・ 認知機能スコアは改善する傾向
 - ・ 嗅覚を頼りにおやつを全て見つけるまでの時間が短縮
 - ・ 空間記憶は衰えずに維持
 - ・ 加速度センサによる運動量は変化せず

これから

この1例を終えて、飼い主さんとコミュニケーションがうまくとれなかったり、データがうまくとれていないことのリマインド等の細かいことへの対応が雑になってしまい、解析が遅れてしまった。今後はリマインドや解析の時間をこまめに把握すること、実験の例数を増やすこと、実験前のビーコンのデータを撮る期間を設けることなどをして実験を順調に進めていきたいと思う。